

# 『川を知り、川と暮らすために 知水読本』

企画グループ サブリーダー 後藤勝洋

## 1. 本書の目的

1997年の河川法改正から15年を経る中で、市民と行政の協働による川づくりが推進されるようになり、水辺とまち、そして人とのつながりが再認識されるなど、全国各地において河川・水辺とまちのより良い関係を目指す気運が高まっています。このような流れを継続していくためには、一般の方々、特に次世代を担う子どもたちを中心に、古くからの川との関わりや、刻々と様相を変える水辺の魅力、時に猛威をふるう自然の怖さなどを知ってもらうことが求められます。

本書『川を知り、川と暮らすために 知水読本』では、「河川・技術・環境・暮らし」をキーワードに、「人」と「川」との来し方行く末を見据えながら、河川・水辺という地域資源の利用のあり方や、治水と生態系保全を両立させる水辺環境整備などをわかりやすく解説しています。本書を通じて、水循環のしくみや日常生活の中で実践できる水害対策など、読者が河川・水辺との関わり方について知り、水とともに暮らすための知識を養ってもらうことを願って出版しました。

## 2. 内容

本書は3部構成で、第1部の『川ってなんだろう』では、水源から山間部、私たちが暮らすまちを経て海へと向かう川の流れ、水循環に関する基礎知識を紹介しています。第2部の『川と生きる知恵と技』では、山地が多く川の流れが急な日本でどのように水を治め共生してきたかを、古く先人たちの知恵、現在の治水技術を中心に解説しています。第3部の『川と人の未来を考える』では、生態系保全や気候変動に伴う大水害への対応など、私たちが将来にわたって取り組むべき河川・水辺の課題に対して、私たちの暮らしの目線で何ができるかを提示しています。



A5版/95頁

## 3. 目次・構成

はじめに 川と共に生きる ～ゆらぎの感動～  
(竹村公太郎)

### I 川ってなんだろう

川から学んだこと 高梁川、霞橋の思い出  
(やべみつのり)

見る・知る・学ぶ—川の姿

風景から川を読み解く 川の誕生 山から平野  
へ平野から海へ

めぐりめぐって水の旅 水循環を考える

表情を変える川 平常時と増水時

### II 川と生きる知恵と技

人は川とどうつき合ってきたか

水を治める知恵と日本人の自然感覚 (高橋 裕)

水辺のテクノロジー

川を治める・利用する

水を溜める

水を引く

堤を築く

岸を護る

放水路

遊水池

総合開発

川を使って運ぶ

舟運の隆盛

舟運新時代

水のエネルギーを使う

biography 織田史郎物語 小水力発電に賭けた夢

interview 織田史郎の遺志を継いで 沖 武宏さん

### III 川と人の未来を考える

持続可能な社会と河川環境

エコロジカル・ネットワークの目指すもの

(関 健志)

Topics 川の自然再生へ

「小さな自然再生」のすすめ

水辺の生態系保全のための地域戦術 (三橋弘宗)

流域思考 生命圏再適応への地図戦略 (岸 由二)

大洪水時代の防災力 「防災」から「減災」へ

(片田敏孝)

Topics 雨と暮らす知恵

なお、本書は、宝くじの社会貢献広報事業として  
助成をいただき、作成・出版したものです。